

巻頭言

「弱さを抱えて―創立者アニー・ランドルフ宣教師」

(コリントの信徒への手紙Ⅱ 12章9～10節)

薬学部 宗教主事

看護学部 宗教主事

まつ たに よう すけ
松谷 暉 介



金城学院の創立者であるアニー・ランドルフ先生は何か超人的力を持った人であるようなイメージで語られることが少なくありません。しかし、当時の手紙や報告書を読むと、当のご本人は、さまざまな弱さや辛さを抱えて苦勞していたことが分かります。

ランドルフ先生は1888～92年にかけて日本で教育の働きをなさったわけですが、それ以前は1872～88年にかけて、中国・杭州のキリスト教女子寄宿学校の校長として働いておられました。アメリカ南長老派教会という教派から1868年に派遣された宣教師のインスリー夫妻が女子学校を創設したのですが、数年後に体調を崩して帰国を余儀なくされたため、ランドルフ先生はその働きを引き継ぐために宣教師となることを志願したわけです。

中国に着任した1872年、ランドルフ先生は既に45歳であり、当時としては決して若くない年齢でした。当初は学校の働きも順調な滑り出しだったようで、「私は前途にある展望にとっても満足している」と報告しています。しかし、5年後の1877年、学校の働きでの過勞により体調を崩した際には、「宣教事業は拡大するどころか縮小している。前進しなければ後退せざるを得ない。現場にいる人たちは次第に消耗し、新しい人員が補充されなければならない」と、困難な状況を吐露しています。

1880年に再び体調を崩した際には、同僚のある別の女性宣教師が「ランドルフ先生は危ない状況にある」と報告するほどでした。同じ報告書の中には「ランドルフ先生のような強力な人材が仕事から遠ざかってしまっただけでは困る」とも書かれているのですが、それは人員不足によりランドルフ先生に多くの負担がかかり、十分に休めない状況にあったことを物語っています。

1882年、ランドルフ先生は一年間の帰国・休暇により体調を回復し、翌年には中国での働きを再開しましたが、1885年には他の同僚の女性宣教師や中国人の女性スタッフが相次いで体調を崩す中で、ランドルフ先生も病床に臥してしまいます。

1887年、ランドルフ先生は数ヶ月間も寝込むほど健康を害したため、中国での働きを辞して日本で静養するようにと医師からの助言を受け、1888年1月に日本へやってきました。その時、ランドルフ先生は既に60歳。中国での教育活動を途中で断念せざる

を得ない無念な思いと、心身の疲れ・痛み・弱さを抱えての来日だったと言えるでしょう。

日本の気候がいくぶんか中国の杭州よりも良かったため、少し健康を回復し、名古屋の地での女子教育の必要性を痛感し、金城学院の前身となる学校を創設するわけですが、数年後、再び体を壊し、日本滞り四年余りで帰国を余儀なくされました。その意味で、金城学院の創設は、ランドルフ先生が最後の力を振り絞って残してくださった遺産のようなものであるともいえるかもしれません。

ランドルフ先生が何度も健康を害して病床に臥しておられたという事実を知るだけでも、決して超人的な人などではなく、私たちと変わらない心身の弱さを抱える人であったことがよく分かります。

では、こうした弱さを抱えたランドルフ先生が、どうして中国と日本とで合わせて20年もの間、宣教師として働くことができたのでしょうか。ここで私たちが目を向けるべきは、そうした人間の弱さの中にこそ、神の力・強さが働くということです。キリスト教を世界宗教にした英雄のように見られがちな使徒パウロでさえも、実は何か大きな病気を抱えていたと言われていますが、彼は「力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と述べた後に、次のように書いています。

「だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。」(コリントの信徒への手紙Ⅱ 12章9～10節)

ランドルフ記念講堂の鐘の音を聞くたびに、ランドルフ先生が弱さを抱えながらも、神から与えられる内なる力に支えられていたことを思い起こしたいものです。



私の教会

日本基督教団金城教会

日本基督教団金城教会牧師
金城学院高等学校非常勤講師

木下喜也



私たちの教会は、金城学院と同じ名前の「金城」教会です。これは、学院の創立者であるランドルフ先生と、金城教会の創立者マカルピン先生は、同じアメリカの宣教団体から来日されたいわば「宣教師仲間」だったからです。したがって学院の創立と金城教会の創立は明治のほぼ同じ時期となります。

そのような学院と同じく歴史ある金城教会の歩みですが、ずっと大切に続けてきたことは毎週日曜日の礼拝です。金城教会では、日曜日に①9時、②10時半、③19時と三回の礼拝をささげております。特に、9時の礼拝は初めての人にも親しみやすく、同じ金城学院の中学生たちもよく礼拝に出席しており、みなさまにもおすすめです。更に、第3日曜日の9時の礼拝は、子どもと一緒に礼拝をささげており、初めての人にも聖書の言葉をわかりやすくお話ししております。

また、私たちの教会は礼拝以外にも、教会に来てもらうように、様々な取り組みをしております。毎年、金城学院大学の学生のみなさまが、授業の一環で礼拝から訪問されるのですが、一様に「思っていたより親しみやすかった」という感想をいただいております。

例えば、私たちの教会では、10時半の礼拝後に原則月に一度「わいわいランチ」として、昼食を共にしております。更に、平日では月に一度のワンコインチャペルコンサートを行っており、音楽を通して教会に足を運んでいただけるようにしております。また、月に一度の「がん哲学外来金城カフェ」というものを開催しており、ご自身やご家族ががんに関わった方々に寄り添う場所として提供して



ります。(ホームページをご参照ください)私たちは、あなたのお越しを心よりお待ちしております。

私の学生時代

バブル崩壊とともに

国際情報学部長

小室達章



私が大学に入学した1991年は、バブル経済の余熱が十分に残っていた時期でした。大学を卒業すれば、苦労せずに就職できると、将来のことを深く考えていませんでした。子供の頃から日本のお城が大好きだったので、キャンパスがお城の中にある「金沢大学」を受験することにしました。得意科目が日本史だったので、2次試験が日本史の論述だけという「経済学部」を選択し、無事に入学することができました。ただ、入学後にバブル崩壊、日本の景気は落ち込んでいきます。

そんな意識の低さや、世の中の落ち込みとは裏腹に、私のキャンパスライフは充実したものでした。大学で学んだことを公園で語り合ったり、夜通し遊び倒したり、試験期間前には一緒に試験対策を講じたり、本当に素敵な仲間たちと出会えました。自分自身も



「経営学」のゼミに入り、研究成果を発表するための資料収集、資料作成、議論を通じて、自分で考えたことを研究するという楽しさを感じるようになっていきました。指導教官や他大学の先生からは厳しく批判され、悔しい思いをしたこともあります。そんな経験を経て、「研究者になる」という決意が芽生えてきました。そこからは、図書館に通っては論文や専門書を読み、「大学院」を受験するための勉強に勤しむ毎日でした。

と、ここまで書くと勤勉なイメージを持たれたと思いますが、決して真面目で良い学生ではなかったです。好きなことは勉強するのですが、授業の成績は散々でした。指導教官から「君、この成績で本当に大学院に行くの？これ



じゃ推薦書は書けないよ」と更なるダメ出しをされた記憶があります。バブル崩壊後は、こんな感じの学生が多かったと思います。

「キリスト教の時間」講演要旨

「和解という課題について ～ イギリスでの経験から」

日程：2024年6月11日(火)

講師：ウィリアムズ 郁子

ICU 和解フォーラム・プロジェクト代表
英国国教会司祭
聖路加国際病院非常勤チャプレン
ICU 大学評議員



聖書では、「隣人を自分のように愛しなさい。」(マタイ 22:39)とされています。これは、一見、簡単なようで、実際にはそうでないのです。私自身、30年暮らしたイギリスでの生活で学ばされたことがありました。



私が1989年にイギリスに着いてまもなく知ったのは、第2次世界大戦中に、実に多くの英国人が東南アジアで日本軍の捕虜となり過酷な扱いを受けて命を落としたこと、そして故国に生還した人たちは、戦後40年以上経った当時でも、日本・日本人に対して非常に厳しい感情を抱いているということでした。私は、それを知ってショックを受けると同時に、それまで全く知らないでいたことを恥ずかしく思いましたが、彼らに謝りに行く勇気もなく、罪の意識が募るだけでした。

ところがその10年後、ロンドンでの日英和解礼拝というものに初めて出席し、日本人として「懺悔の祈り」に加わることができました。私たちの国の過去の行いを悔い、神の赦しと癒しを言葉にして祈ることができたのです。そして、元捕虜の英国人たちは私たち日本人に歩み寄り握手



※第二次世界大戦下、日本軍の捕虜となり三重県で犠牲者となった16人のイギリス人戦争捕虜の慰霊碑の前で。

を求めて下さいました。感謝で涙が止まらない経験でした。このような「和解」とは、常識的に考えれば不可能と思える状況でも、神様が私たちに愛のギフトとして下さるものなのだと知ったのでした。

和解は「旅」と言います。常に分断が続く世界では、希望を失いそうになりますが、私たちをどのような状況でも神様の永遠の愛を信頼して、隣人を愛す生き方へと呼ばれています。キリストは「私に繋がっていなさい。私もあなた方に繋がっている。」(ヨハネ15:4)と仰っておられます。皆さんもこの愛の方に繋がって行かれますように。

※講演の様子はこちらからご覧
いただくことができます。



学生感想

講演の中で私が一番興味を引かれた内容は、和解礼拝だ。懺悔の礼拝をして、神様の前で口に出し、昔被害者であったイギリスの人達の前で懺悔の祈りをしたと聞き、私たちの知らないところで昔の日本人がしたことを、今の日本人の方が代わりに過ちを認めて、神様の前で祈っていることが分かった。

しかし、なぜ昔の人がしてしまった過ちを、今の人たちが代わりに謝らないといけないのかと思った。だが、講演を聞いて学んだことがある。それは、次世代の人たちが昔あったことを学び、その昔あった日本人の過ちをしっかりと認めて、その被害者の国の方々と和解を試みることで、すなわち、懺悔の礼拝をすることで、被害者の方々の心が穏やかになるだけでなく、そういった昔行ってしまったことに負い目を感じている今の日本人の方々の心も落ち着き、気が楽になるということだ。それと同時に、礼拝にはそのような偉大な力があることがわかった。

また、「和解」という言葉の重みを学ぶことが出来た。私は、はじめ、和解という言葉を知ると、「人と人が分かち合い、仲直りする」という意味があると思っていた。しかし、講演を聞く限り、和解という2文字には長年の年月と多くの人が関わっていて、自分の思っている以上に深い意味があるものなのだった。

そして、和解をする上で大事なことも学ぶことが出来た。それは、インターネット上ではなく、顔と顔を合わせて、しっかりと意見を言い合える場所があり、ちゃんと自分の気持ちを伝え合うことだ。だが、和解をしたからそれでよしではなく、和解を続けることが大事ということも学ぶことが出来た。

最後に、色々な人種や過去がある中で生きる私たちに大切なのは、多種多様な意見を認めて、しっかりと話し合いをして問題を解決していくこと、そしてしっかりと自分の国の過去を知ることだと思った。昔やってしまったことは、もうやり直すことは出来ない。だからこそ、昔やってしまった過ちを繰り返さないことが、一番の和解なのではないだろうか。

看護学部看護学科1年 山田絵梨

宗教主事の旅日記

「アニー・ランドルフ先生と 金城学院の足跡を訪ねて」

文学部 宗教主事
国際情報学部 宗教主事

おち あい けん じ
落 合 建 仁



少し前のことになりますが、今年の2月に、私と松谷嘩介先生（薬学部・看護学部宗教主事）とでアメリカへ行ってきました。それは、金城学院の創設者アニー・ランドルフ先生（1827-1902年）や、ランドルフ先生を宣教師として派遣したアメリカ南長老派教会の歴史について調べるためです。

目的地はアメリカの都市フィラデルフィアにあるアメリカ長老派教会の歴史資料館（正式名称Presbyterian Historical Society）で、そこには百年以上も前の古い資料——たとえば教会の会議の議事録や宣教師が書いた手書きの手紙など——がたくさん収められています。

さて、2人は中部国際空港から出発するのですが、空港で早くも私のスーツケースの車輪が粉碎して壊れ、また駐車場で松谷先生は荷物を置き忘れそうになったりと、早くも不穏な空気が……。その後無事にアメリカ到着、宿泊施設はニューヨークから車で1時間半ほどの、プリンストン神学校に併設されたゲストハウスに泊まりました（円安でも費用がととてもリーズナブルでした）。

プリンストンで研究している知人に案内をさせていただいて、プリンストン神学校（主として牧師養成を行う学校）のチャペル礼拝にも出席することができました。建物の外観や屋内は、白色を基調としたとても素敵なものでした。印象的だったのは、理由は聞きそびれましたが、建物の外、入口脇に荷物を置いてから皆が礼拝堂へ入っていったことです（よって、外部から来た人は、荷物を抱えたまま入るのですぐ分かるとのこと）。外に置いたままでも盗難の起きない、治安のよさを感じました。



さて、本題の長老派教会の歴史資料館ですが、フィラデルフィアにありますので、プリンストンからはレンタカーで毎日往復して通います。資料館の閲覧ブースは数に制限があるので、予約をしてから行きます。そして、カウンターのスタッフの方に閲覧票を提出して、資料を奥から運び出してくださいます。限られた滞在期間ですので開館から閉館時間、朝から夕方まで食事は一切とらず、次から次へと資料を閲覧し、必要な箇所をスマホのカメラでひたすら撮影し続けました。毎日終わる頃にはもうヘトヘトです。



このように体力勝負の日々でしたが、現地でのコミュニケーションについては語学が大変堪能な松谷先生にお任せし、一方の私は車の運転が好きなのでレンタカーの運転を担当するなど（海外で運転するのは初めてでしたが、予めYouTubeでアメリカの交通ルール・運転マナーを学んでおいて大正解でした）、お互い補い合いながら無事に研究調査を終えることができました。

今回の研究調査によって、アニー・ランドルフ先生や金城学院の歴史に関することで新しい発見が幾つもありました。成果は後日、発表する予定です。ぜひご期待ください！

礼拝説教要旨

ペンテコステ記念週間

2024年5月21日(火) 朝の礼拝

「友人と分かち合う」

教育宣教師

オークイン ケイトリン
O'QUINN, Caitlin R.

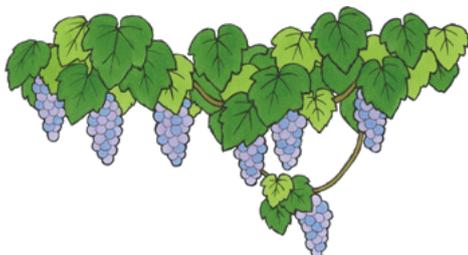


私たちは幼い時には、兄弟姉妹とおもちゃを分かち合うことを教えられ、さらに10代になり成長していく中で、友人や家族とさまざまな経験や感情を分かち合うことを学びます。

イエス様は出会ったすべての人と分かち合い、ご自身が天に昇った後でも弟子たちに同じようにするよう伝えました。弟子たちには選択の余地がありましたので、イエス様の言葉に従わないこともできたはずですが、彼らはそれでもなお困難な務めを選びとり、イエス様のことを人々に分かち合うことを決めました。神様は彼らを祝福し、人々とつながるための良いスキルを与えてくださったので、彼らはたとえ言語が通じない場所にでも行くことができました。イエス様の愛は、人々とつながるために言葉を必要としません。私たちは何かを分かち合うことだけで、誰かとつながることができるのです。

日本では、旅行するときに家族にお土産を持ち帰る伝統があります。これは小さなことですが、他の人々に良い影響を与える素晴らしい例です。クリスチャンであることの意味や、あなたがイエス様を信じる理由をもっと分かち合うことで、友人が教会に通い始めるきっかけになるかもしれません。友人を教会の聖書研究会に招いたり、自分で始めたりすることもできます。友人が必要なときに助け、そのことによって愛を示すこともできます。

ルカによる福音書6章38節の「与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに量りをよくして、ふところに入れてもらえる。あなたがたは自分の量る秤で量り返されるからである」という聖句は、分かち合いの性質を示しています。それは、私たちが与えれば与えるほど、多くを受け取ることができる、ということです。信仰を分かち合うとき、私たちは他の人々を祝福するだけでなく、神からさらに多くを受け取ることができるのです。



2024年6月13日(木) 昼の礼拝

「希望を描いて」

学院長補佐

なが や より こ
長屋 頼子



私は、1970年に金城学院中学校に入学しました。本日の聖書の箇所は私が好きな聖書箇所の一つで、1970年の金城学院聖句標語です。当時私たちが使用していた聖書には、「希望は失望に終わることはない」(ローマ人への手紙5章5節、口語訳)と書かれていました。私にとって初めて出会った聖書のみ言葉でした。このみ言葉に幾度となく励まされました。

金城学院は1889年に女学専門冀望館から始まりました。女性の地位が低い明治時代に、女性宣教師アニー・ランドルフ先生たちは、「聖書を基にして女子に最高の教育を行い、神と人に奉仕できる人を育てたい」と学校を創立されました。恐らくその思いの中に「女性が希望を描いて歩いて欲しい」との思いがあったのだと思います。かつて高等学校には「希望館」という校舎がありました。校舎建て替えに伴って、「希望館」という校舎は無くなりましたが、現在登録有形文化財「栄光館」1階の資料室に「冀望館」という名前を残しています。

さて、金城学院は神様に選ばれ入学された皆さんを「希望を描いて歩いて欲しい」という思いで迎えています。先日大学で試写会が行われた「ディア ファミリー」の主人公が本学に通っていた時も勿論同じです。私は、授業担当者として彼女と出会いました。担任の先生をはじめ、関わっていた教職員が彼女に「希望を描いて歩いてほしい」という思いでいたと思います。その気持ちを感じとれたのは、彼女と出会った数年後に重い心臓疾患を持った生徒を私のクラスに迎えた時と、その数年後に視力に障がいがあり、車椅子で学校生活を送っていた生徒を私のクラスに迎えた時でした。授業を担当するしないにかかわらず、教職員の皆が「彼女の学校生活のために」と色々取り組んでいました。

例えば心臓疾患があった生徒には、教室の位置や体育の授業内容を考えたり、どうしても部活動に参加できるかをそれぞれの教職員が考えて手探りで動いていきました。因みに彼女はグリークラブに所属し、ヨーロッパの演奏旅行にも参加しました。

また、視力に障がいがあった生徒にも、教室の位置や授業の内容や授業方法をそれぞれが考えてくださいました。特に印象に残っているのは、家庭科の編み物でした。子供の遊びのリリアンからヒントを得て、授業担当者が厚紙で道具を考案し、マフラーを編み上げました。

さらに、学校行事での彼女たちのクラスメートの言動にも私は担任として支えられました。

球技大会でのキャプテンの一言「試合に負けたら、彼女が自分のせいで負けたと思って悲しむから、絶対優勝しよう!」。読書会の討論が進行していく中でのクラスメートの一言「障がいを持つということは、私たちが数学苦手ということと同じ」。これが、金城学院の姿であると私は思います。

先日の大学での礼拝で、宗教主事の先生が、「大学は色々な学問を究めるところです。では、キリスト教は何のためですか。」と問われました。そして「それは心の栄養です」とおっしゃいました。皆さんは幸いなことに、毎日の礼拝やキリスト教学で、多くのみ言葉に出会います。皆さんが「希望を描いて」歩いていかれる時、出会ったみ言葉が必ず皆さんを支え導いてくれます。どうぞ出会ったみ言葉を心の栄養として、希望を描いて歩いていってください。

礼 拝

9月19日(木) 吉松 純 大学宗教主事
 19日(木) 松谷 暉介 薬学部宗教主事
 20日(金) 落合 建仁 文学部宗教主事
 23日(月) 小室 尚子 学院長・宗教総主事・大学長
 24日(火) 田口 博之 日本基督教団名古屋教会牧師
 25日(水) 辻 順子 日本基督教団鳴海教会牧師
 26日(木) 落合 建仁 文学部宗教主事
 26日(木) 小坂橋 秀行 日本フーリッシュト福音伝道所キリスト教牧師
 27日(金) 狩野進之佑 日本基督教団愛知守山教会牧師
 30日(月) 吉松 純 大学宗教主事
 10月1日(火) 八東 清 日本基督教団御器所教会牧師
 2日(水) 中島 善子 日本基督教団豊橋東田教会牧師
 3日(木) 吉澤 永 日本基督教団愛知教会牧師
 3日(木) 松谷 暉介 薬学部宗教主事
 4日(金) 松谷 暉介 薬学部宗教主事
 7日(月) 吉松 純 大学宗教主事
 8日(火) 小室 尚子 学院長・宗教総主事・大学長
 9日(水) 南 尚浩 愛隣教会牧師
 10日(木) 稲田 勝之 日本基督教団中京教会牧師
 10日(木) 大住 共平 日本基督教団知立伝道所・碧南教会牧師

創立記念礼拝

11日(金) 戸 莉 創 理事長
 16日(水) 小室 尚子 学院長・宗教総主事・大学長

秋の伝道週間

21日(月) 朴 長在 生活環境学部食環境栄養学科2年
 21日(月) 小林 光恵 東京神学大学大学院1年
 22日(火) 和田 芳子 日本基督教団東海教会牧師
 23日(水) 横山 巴香 人間科学部現代子ども教育学科4年
 24日(木) 山田麻衣子 日本基督教団名古屋北教会牧師
 24日(木) 高岡美千代 クワイア指導者(クワイア特別讚美)
 25日(金) 小椋 実央 日本基督教団瀬戸永泉教会牧師
 28日(月) 宇井志緒利 明治学院大学法学部非常勤講師
 29日(火) 吉松 純 大学宗教主事
 30日(水) 松谷 暉介 薬学部宗教主事

宗教改革記念礼拝

31日(木) 小室 尚子 学院長・宗教総主事・大学長
 31日(木) 落合 建仁 文学部宗教主事
 11月1日(金) 安達 正樹 日本基督教団名古屋新生教会牧師
 4日(月) 山田 詩郎 日本基督教団名古屋北教会牧師
 5日(火) 上村 千尋 人間科学部教授
 6日(水) 横山 良樹 日本基督教団半田教会牧師
 7日(木) 松谷 暉介 薬学部宗教主事
 7日(木) 吉松 純 大学宗教主事
 8日(金) 落合 建仁 文学部宗教主事
 11日(月) 小林 光 日本基督教団熱田教会牧師
 12日(火) 吉澤 永 日本基督教団愛知教会牧師
 13日(水) 原田 望 大学事務部長
 14日(木) 朴 相俊 生活環境学部教授
 14日(木) 小室 尚子 学院長・宗教総主事・大学長
 15日(金) 大住 共平 日本基督教団知立伝道所・碧南教会牧師
 18日(月) 山田麻衣子 日本基督教団名古屋北教会牧師
 19日(火) 小室 尚子 学院長・宗教総主事・大学長
 20日(水) 辻 順子 日本基督教団鳴海教会牧師
 21日(木) 田中文宏 日本基督教団名古屋松山教会牧師
 21日(木) 落合 建仁 文学部宗教主事
 22日(金) 吉松 純 大学宗教主事
 25日(月) 洛 雲海 日本基督教団奥沢教会牧師
 26日(火) 松谷 暉介 薬学部宗教主事
 27日(水) 長屋 頼子 学院長補佐
 28日(木) 田中真希子 日本基督教団名古屋松山教会牧師
 28日(木) 落合 建仁 文学部宗教主事
 29日(金) 小坂橋 秀行 日本フーリッシュト福音伝道所キリスト教牧師
 12月2日(月) 田口 博之 日本基督教団名古屋教会牧師
 3日(火) 中島 善子 日本基督教団豊橋東田教会牧師
 4日(水) 山田 詩郎 日本基督教団名古屋北教会牧師
 5日(木) 栗原 武士 日本基督教団刈谷教会牧師
 5日(木) 落合 建仁 文学部宗教主事
 6日(金) 狩野進之佑 日本基督教団愛知守山教会牧師
 9日(月) 松谷 暉介 薬学部宗教主事
 10日(火) 辻 秀治 日本基督教団桑名教会牧師

11日(水) 江 連 実 日本基督教団豊田教会牧師
 12日(木) 榮 巖 日本基督教団春日井教会牧師
 12日(木) 南 尚浩 愛隣教会牧師
 13日(金) 吉松 純 大学宗教主事
 16日(月) 和田 芳子 日本基督教団東海教会牧師
 17日(火) 八東 清 日本基督教団御器所教会牧師
 18日(水) 稲田 勝之 日本基督教団中京教会牧師
 19日(木) 松谷 暉介 薬学部宗教主事
 20日(金) 落合 建仁 文学部宗教主事
 23日(月) 小室 尚子 学院長・宗教総主事・大学長
 24日(火) 吉松 純 大学宗教主事
 1月6日(月) 吉松 純 大学宗教主事
 7日(火) 小室 尚子 学院長・宗教総主事・大学長
 8日(水) 松谷 暉介 薬学部宗教主事
 9日(木) 落合 建仁 文学部宗教主事
 9日(木) 長屋 頼子 学院長補佐
 10日(金) 置田 牧人 大学運営推進部大学運営推進課長

卒業予定者礼拝

14日(火) 戸 莉 創 理事長
 15日(水) 松谷 暉介 薬学部宗教主事
 16日(木) 林 小夜子 みどり野会会長
 16日(木) 落合 建仁 文学部宗教主事
 17日(金) 吉松 純 大学宗教主事
 20日(月) 小室 尚子 学院長・宗教総主事・大学長
 23日(木) 松谷 暉介 薬学部宗教主事
 23日(木) 落合 建仁 文学部宗教主事
 24日(金) 吉松 純 大学宗教主事
 27日(月) 小室 尚子 学院長・宗教総主事・大学長
 28日(火) 松谷 暉介 薬学部宗教主事
 29日(水) 落合 建仁 文学部宗教主事

(赤字は昼の礼拝です)

朝の礼拝

日 時 月～金曜日 8時45分～9時
 場 所 エラ・ヒューストン記念礼拝堂

昼の礼拝

日 時 木曜日 12時40分～12時55分
 (伝道週間は13時5分迄)
 場 所 エラ・ヒューストン記念礼拝堂

祈祷会

日 時 水曜日 8時10分～8時25分
 場 所 キリスト教センターラウンジ

キリスト教学校教職員志願者ガイダンス

日 時 9月26日(木) 16時45分～18時15分
 講 師 沖崎学(高等学校宗教主事)

貴重聖書展示・パネル展

日 時 10月17日(木)～31日(木)
 場 所 キリスト教センターラウンジ
 図書館ラウンジ

感謝礼拝(実験動物を記念して)

日 時 10月17日(木) 9時10分～9時50分
 場 所 アニー・ランドルフ記念講堂
 説 教 落合建仁(文学部宗教主事)

キリスト教の時間

日 時 11月14日(木) 16時45分～18時15分
 場 所 アニー・ランドルフ記念講堂
 講 師 荒川朋子(学校法人アジア学院校長)

クリスマスツリー点灯式

日 時 12月2日(月) 17時～17時30分
 場 所 N1棟前
 説 教 沖崎学(高等学校宗教主事)

クリスマスオルガンミニコンサート

日 時 12月2日(月) 17時30分～18時
 場 所 エラ・ヒューストン記念礼拝堂
 演 奏 鈴木牧子(学院オルガニスト)

クリスマスハンドベルコンサート

日 時 12月7日(土) 17時30分～19時30分
 場 所 アニー・ランドルフ記念講堂
 演 奏 ハンドベルクワイア
 入場料 ¥1,500

オルガンコンサート

日 時 12月13日(金) 12時40分～13時10分
 場 所 エラ・ヒューストン記念礼拝堂
 演 奏 オルガニスト養成講座受講生

大学クリスマス礼拝

日 時 12月19日(木) 17時～18時
 場 所 アニー・ランドルフ記念講堂
 説 教 田口博之(日本基督教団名古屋教会牧師)



金城学院大学キリスト教センター

Tel. 052-798-0180
 Email. ccoffice@kinjo-u.ac.jp
 URL. <https://www.kinjo-u.ac.jp/ccoffice/>

※各行事の詳細はキリスト教センターホームページをご覧ください。諸事情により変更となる場合がございます。